



208号

2015 / 11 / 1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’

東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方

〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100

<http://wanli-san.com/>

Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp

◆‘わんりい’ HPのアドレスが上記になりました。



「舞姫登場」 2012年10月 撮影 大川健三 (中国四姑娘山自然保護区管理局・特別顧問)

中国四川省カンゼ・チベット族自治州・丹巴には踊りや歌の達者な子供が沢山いて色々なイベントで素晴らしい芸を披露してくれます。写真の先頭の子供は未だ小学生ですが、将来を期待されている舞姫の1人です。

‘わんりい’ 11月号の目次は最終ページにあります

今年9月、私は‘わんりい’の友人と二人で、2014年新たに世界遺産になった『中国大運河』を巡る旅に参加し、天津から出発して、聊城→済寧→淮安→揚州→上海と回った後、団体と別れて、二人で北京へ向かい、約1週間で北京で過ごしました。そして、12、3年振りに円明園に行ってみました。北京では、後から日本を出発して来る二人の女性と落ち合って、一日行動を共にする約束をしていました。彼女達は私たちより若い人達で、「円明園には行ったことが無い」というので、「では一緒に行きませんか」ということになりました。

「円明園」を百科事典で引くと、「北京の北西にあった清朝の離宮で、清朝第5代の雍正帝が本格的に造園し、第6代の乾隆帝が改修・拡張して、更に宣教師達に命じて、西洋風の宮殿や噴水も設置した。壮麗を極めた離宮であったが、1860年のアロー戦争で、英仏連合軍に略奪・放火されて廃墟になった。」と記されています。

でも、そんな事実よりも、「清末の西太后が、西欧列強の脅威の下でも、国家の軍事費を離宮造営に流用したので、清朝の滅亡を早めたのだ」という話と、その象徴としての円明園が有名です。そして中国政府は、廃墟と化した円明園を、そのままの状態で保存する予定である、と聞いていました。

ところが、今回行ってみると、公園は昔の面影が全く有りませんでした。以前は、建物に使用された石材や、そこから欠けた大きな石片が至るところに転がり、折り重なった石の間に雑草が繁る、殺風景な公園でした。歩き草臥れば、そんな石に腰を下ろして、雑草の中に小さな花を見つけ、聞こえてくる虫の声に耳を傾け、なかなか素敵な時間が楽しめました。

もう10年程前になりますが、北京市が深刻な水不足に悩まされたことがありました。北京は、元来余りに恵まれた都市ではありませんが、当時は高層ビルの建設ラッシュで、地下水源が枯渇し、地盤が下がったので、都市建設と保水層の研究が行われていました。そんな中で、円明園の池の水が減り、その原因究

明が急がれました。そのプロジェクトに私の友人の一人が関わったので、研究の話を聞き、現地を見学しました。

その時の円明園の東の池は、水が底の方に少し残るだけになり、回りの廃墟と妙にマッチする光景でした。詳しい話は聞き漏らしましたが、当時は、原因が分かれば人工の保水層を挿入してでも、池の漏水を止めるのだと言っていました。その成果かどうか、今、園内の多くの池は満々と水を湛え、蓮の花も植わっていて、とても綺麗になっていましたが、面白味はなくなっていました。

因みに、この時、水不足を抜本的に解消する方法として、「南水北調」という考え方が脚光を浴び、現在既にその一部が稼動しています。南の水を北京まで運ぼうという大プロジェクトで、今回の運河の旅でも、その施設のほんの一部をチラリと見る事が出来ました。

暫く前のテレビドラマ「大地の子」で主人公と許婚がデートする場面は、以前の円明園で撮影したそうで、その場面だけは入り口に入って直ぐのところに展示してありました。でも、それ以外の廃墟は何処へ行ってしまったのでしょうか？ とても大きな公園で、私達は三分の一ほどしか見ませんでしたから、もっと奥に一部でも残してあるかもしれませんが、たえそうであったとしても、それではあまり意味がありません。広い北京の中に、一か所くらい廃墟のままの公園があっても良かったと思います。特にそれが歴史的な背景を持っているのですから、なおさらです。

整備された公園にはがっかりでしたが、一つだけ嬉しいことがありました。切符売り場で入場券を買おうとしたら、身分証を見せろと言われ、慌ててパスポートを差し出すと、切符は要らないと言われました。窓口の料金表示には気をつけていて、老人割引があるとすかさず利用している私達ですが、今回は表示が無くて、切符を買う積りだったのに、パスポートで年齢を確認して、老人優待を適用してくれたのでした。些細なことですが、とても嬉しく思いました。

Jūn zǐ hé ér bù tóng
君 子 和 而 不 同

君子は和して同ぜず 〈子路第十三〉

桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄



私たちがよく耳にする諺に「三人寄れば文殊の知恵」というのがあります。『論語』にも「三人行，必有我師焉（Sān rén xíng, bì yǒu wǒ shī yān）」（三人行けば、必ず我が師有り）〈述而第七〉という言葉があり、両者は一見似ているようですが、やや違った意味合いを持っています。この後に続くのは「择其善者，而从之，其不善者而改之（Zé qí shàn zhě, ér cóng zhī, qí bù shàn zhě, ér gǎi zhī）」（其の善なる者を^そ^{ぜん}えら^{えら}んで^{これ}之に^そ従い、其の^ふ^{ぜん}不善なる者は^{これ}之を^{あらた}改む）です。

ここで言う「三人」とは実数ではなく、世間の多くの人々という意味です。この世界にはいろいろな人がいる。良い人もいれば、悪い人もいる。良い人に出逢ったら見習えばいいし、悪い人なら反省材料にすればよい。「人の振り見てわが振り直せ」という諺がこれに当たります。人に対する好悪の感情にとらわれることなく、何よりもまず自分を磨け、という意味にもとれます。では、人のことはどうでもよい。自分だけが向上すればそれでよい、ということなのでしょう。『論語』全体を見渡すと、必ずしもそうとは言えないようです。

孔子は、乱れた世の風潮を武力以外の方法で正すため、自分に対しても他人に対しても妥協を許さない、堅い意志の持ち主でした。いわば孤高の人という形容が当てはまりそうな人でしたが、同時に、独善的であることを嫌った人です。次のようにも言っています。「德不孤。必有邻（Dé bù gū bì yǒu lín）」（徳は孤ならず。必ず隣あり）〈里仁第四〉。仁徳というものは、決して孤立したものではない。まわりには必ず理解者がいるものだ、と。その言葉通り、孔子は世間と隔絶することをしなかった人でもありました。

そのことは次の言葉にも表れています。「鸟兽不可与同群，吾非斯人之徒与，而谁与（Niǎo shòu bù kě yǔ

tóng qún, wú fēi sī rén zhī tú yǔ, ér shuí yǔ)」（鳥獸は^{とも}与に^{ぐん}群を^{われ}同じく^こすべからず。吾は斯の人の徒と^と与に^{とも}するに^{あら}非ずして、誰と^{たれ}与にか^{とも}せん）〈微子第十八〉。鳥や獸と一緒に暮らすわけにはいかない。この世界の^{もろもろ}諸々の^{やから}輩と共に生きないで、誰と共に生きるというのか。世の流れに妥協はしないが、世捨て人にはなりたくない。これが孔子の基本的な考えでした。

また、次のようにも言っています。「君子和而不同，小人同而不和（Jūn zǐ hé ér bù tóng, xiǎo rén tóng ér bù hé）」（君子は^わ和して^{どう}同ぜず、小人は^{しょうじん}同じて^{どう}和せず）〈子路第十三〉。君子とは人の上に立つ人、もしくはそれにふさわしい人格の持ち主のことです。今風に言えば、理想の管理職像ということでしょうか。そういう人は誰とでも調和するが、相手に同質性を求めることはしない。一方、度量の狭い小人は相手に同質性を求めたがり、異質なものと調和することができない。

この言葉には、2500年前の人の言葉とは思えない新鮮な響きがあります。時代を超えて、現代に生きる私たちにも、そのまま当てはまりそうです。たいていの人は他人に対して自分との同質性を求めたがります。これは誰もが持つ自己防衛本能と言ってもよいでしょう。同時に、相手に異質なものを^{かんじ}感じ取ると、^{はん}反発し^{はい}排他的になりがちです。しかしこれでは自分が生き辛くなるばかりです。人間関係もギクシャクしてきます。

同質性を求める自分の心に歯止めをかけ、相手の異質性を認めた上で調和して生きる知恵を持つこと、これは人間関係のみならず、国家間、民族間、異文化間についても言えることではないでしょうか。

（わりい「中国語で読む漢詩の会」講師）

清の時代の物語です。

山東省歴城官庁の吏部（官吏の任免などを管理する官庁）の長官に殷士澹という人物がいました。彼が若い頃、家は貧しかったのですが、彼自身は豪胆で有名でした。

殷士澹が住んでいる村に古い屋敷がありました。広大な敷地に立派な建物が数多く建つ美しい庭園式屋敷で、庭を眺めたり休息の為の亭台楼閣があちこちにありました。この屋敷の元々の主は友人が多く、人々が見学に訪れたり、宴会や飲み会などで集うことも多くとても賑やかな屋敷でした。

しかし、その家族の長老である主が亡くなり、だんだんに家運が傾いて屋敷を訪れる人も少なくなるにつれ、いつしか屋敷の佇まいが寂しくなって来ると怪しい事件が度々起こるようになりました。そして、幽霊やら、鬼やら、狐やらなどが住んでいると噂されるようになりましたので、その屋敷の家族も怖がって住まなくなり、終に廃屋同然になってしまいました。

そのまま年月を経て庭には雑草が生い茂り、屋内には埃が積り、部屋には蜘蛛の巣がかかり、窓も、戸もぼろぼろに朽ちて、夜は勿論、昼さえも訪れる人がなくなりました。

ある日の夕方、殷公が友人達と酒を飲んでいると、その仲間の一人が冗談ぽく言いました。

「だれか肝玉のある奴はいるかな。あの屋敷に一晩泊まれたらご馳走するからさ」

それを聞いた殷公は素早く立ち上がり

「そんなことは容易ことだ。俺がやってみよう」

と言うと、簾を一枚を持って屋敷に向いました。

友人達も屋敷の玄関までついて来て、冗談半分で「俺たちは外で待ってるよ。何かあったら大声で呼んでくれ。応援に駆けつけるよ」と言いました。

殷公は屋敷の門をくぐりながら

「待っていたまえ。化け物を捉まえたら、皆に見せてやるわ」

と言い、庭の奥へ進んで行きました。

庭には、ハマスゲが道を遮るように繁り、よもぎは人の背よりも高く生え茂っています。屋敷の奥へ行けば行くほど周りはしんと静まり返りだんだん寂しくなってきました。夜の帳が段々に下りてくると折しも上弦の月が昇って来ました。その明かりを借りて道筋を見分け足下に気を配りながら用心深く

歩き、時には手探りしながら幾つもの建物を通り過ぎると、とうとう最奥の一番高い亭台楼閣に辿り着きました。

きっと高いところは景色が良いだろうと考えて、殷公は階段を昇りました。上につれて視界が広がり、月の光りに照らされた庭園の全望が目に入りま

した。その景色を見ている内にやっと気持ちが落ち着き、簾を敷いて長い間座っていましたが、怪異らしいことは何も起こりません。「世の人は噂話を信じて本当だと思うからね」と殷公は心の奥でつぶやきひとりで笑い、そして横になって仰向きになって澄んだ夜空に輝く星を眺めました。



満柏 画

夜がどんどん深くなり、二更(午後11時)になった頃でしょうか、階下に靴音がして、何者かがガタガタ登ってくるような気配がします。殷公は寝た振りをしてそっと足音のする方を盗み見すると、蓮型の提灯を手に掲げた若い女性が現れ、その女性が殷公を発見すると、驚いた様子で振り返って後ろの人に報告しました。

「知らない人がいるわ」

階下から訊ねる声でした。

「誰じゃ？」

「見たことない人ですよ」

と女性が答えている間に、一人の老人が上って来ました。老人はじっと殷公の顔を見つめて言いました。

「このお方は殷長官だよ。ぐっすり寝込んでおられるから、私たちもそっとしておいて差し上げよう。長官は洒脱なお方でいらっしゃるから、私たちを見ても咎めることはなかろう」

そういうと、階下に向かって手を振りました。召使いと思われる人たちが物を運んでそろそろ楼閣に上ってきました。楼閣に明かりが灯され昼間の^{せわ}ように明るく輝き、行き来するものはいかにも忙しなげに何かを準備しているように見えます。

殷公は寝返りを打って、「くんくん」と咳をしました。老人は咳に気が付いて殷公の傍に来、殷公が目覚めたことを知るとすぐ跪いて言いました。

「お休みのところをお邪魔申し上げ恐縮に存じます。実は、拙者には年頃の娘がおり、今夜、結婚式を挙げます。ここでお休みの貴人がいらっしやるとは存じ上げませんでした。どうかお許ください」

殷公は立ち上げると、跪く老人を引き起こして言いました。

「いや、今夜がそんな目出度い日だとは思ってもみなかった。祝の品も持っておらずお恥かしいことです」

「今夜あなた様のような貴人^{うたげ}が宴にご臨席賜ればとても光栄なことです。お差し支えがございません

でしたらご列席いただければ大変幸運と存じます」

殷公は喜んで老人の招きに応ずることにしました。楼閣の広い部屋に入って見ますとそこは美しく飾り整えられています。あちこちを見て回る内に音楽が賑やかに始まりました。

走って来た者が

「新郎が着きました！」

と大きな声で知らせました。

殷公が声のする方を見ると、絹張りの提灯を手にした一団が、十八才前後かと思われる新郎を導いて庭に入って来ました。眉目秀麗な若者です。老人はその若者が席に着くと貴賓席の殷公に挨拶するよう命じました。そして、自分も他の客に礼儀正しくお礼を述べました。宴席に集まった人々がようやく席に落ち着くと、美しく化粧した女性達の列が続々と現れ、客に酒やお茶を勧めました。食卓には様々なご馳走が一杯並べられ、玉、金、銀の食器が輝くばかりでした。

あちこちで酒を酌み交わしてから老人は娘を連れてくるようにと侍女に命じました。侍女が奥へ入ると、間もなく藍麝の香りが漂い始め、シャランシャランと帯玉の音を立てながら、数人の侍女達に囲まれた若い女性がゆっくりしなやかに現れました。身に付けているものは衣装も装身具も世間でなかなか見られないような高価で素晴らしいもののようには思われましたが、その娘の顔立ちは端麗に整い、しかも華やかで、この世の女性と思われないほどでした。老人は花婿に命じたように、娘にも客に礼をするように命じました。

宴席の人々は黄金の杯を高く持ち上げ、目出たい言葉や祝福を込めた言葉、娘の美しさを褒めそやす言葉などを口々に言い合い、宴は暖かく賑やかに始まりました。

殷公は黄金色に輝く杯を持って、なん杯も飲んで、この場をこの目で見た証拠として、友人達に見せようと、秘かに金の杯を袖の中に隠し入れました。そして、酔った振りをして、食卓に凭れかかっている内に深く寝入ってしまいました。 (続く)

私の調べた諺・慣用句 44

吝^{りん} 嗇^{しやく}

三澤 統

今回は「吝嗇」、いわゆる“けち”についてのお話です。世の中には物惜しみするけちな人も多勢いるものですが、中国で“けち”の喩えとされている成語が見つかりましたので、調べてみました。このエピソードに、ある主人公が登場します。さて、その主人公は何をどの位物惜しみしたのでしょうか？

辞書にはそれぞれ次のように載っています。

▲ 小学館 デジタル大辞泉：

「吝嗇 ひどく物惜しみすること。またそのさま。けち」

▲ 小学館 中日辞典：

「一毛不拔 yī máo bù bá 髪¹本抜くのさえ惜しむ：ひどくけちであることの喩え」

墨子¹⁾、名は翟^{てき}は、戦国時代の大思想家であり、墨家学派の創始者です。彼は“兼愛”（^{けんあい}自他・親疎の区別なく、平等に人を愛すること）を主張し、そのため戦争にも反対をしました。

墨子とほぼ同じ時代に、楊朱²⁾という哲学者が居りました。彼は墨子の“兼愛”に対し“^{いが}為我說³⁾”、（個人主義的思想）を主張しました。

有る時、墨子の学生の一人在楊朱に質問しました。

「もし、あなたの髪の毛を一本抜くことで、世の人が恩恵を得られるとしたら、ご自分の毛を抜きますか？」

楊朱は、

「世の人の問題は一本の毛を抜いて解決するような問題ではあるまい」

と言いましたので、学生は重ねて

「仮に可能だとすればあなたはそうしますか？」

と、問いましたが、楊朱は答えませんでした。

当時のもう一人の大思想家であり、儒家学派の代表である孟子は楊朱と墨子について次のよう



に評しています。

「楊朱の主張は“独我論⁴⁾”であり、仮に自分の髪の毛を一本抜いて世の人が益を得られるとしても、人の為には髪の毛一本すら抜かないのではないか。一方墨子の主張は“兼愛”であって世の人にとって有益であれば、たとえ毛を抜いて頭がつるつるになったとしても、かれは喜んでそうするであろう」

〈注記〉

1) 墨子(ぼくし)：中国戦国時代の思想家。河南魯山の人。あるいはその著書名。墨家の始祖。一切の差別が無い博愛主義を説いて全国を遊説した。いわゆる墨子十大主張を主に説いたことで世に知られている。
(ウィキペディアより)

2) 楊朱(ようしゅ)：楊朱は中国の春秋戦国時代の思想家。個人主義的な思想である為我說を主張した。字は子居。人間の欲望を肯定し、自己満足が自然に従うものであるとした。儒家、墨家に対抗し、異端として孟子などから排撃される。
(ウィキペディアより)

3) 為我說(いがせつ)：〈我が為にする〉個人主義の立場であり、〈一毛を抜いて天下を利するも為さざるなり〉と徹底していた。

4) 独我論(どくがろん)：真に実在するのは自分の自我だけであり、他者や外界の事物は自らの意識内容にすぎないとする考え。

(出典：中華成語故事大全 http://blog.sina.com.cn/s/blog_4cabd2fc0102e0jf.html)

詩人^{いん せ りん}尹世霖の童詩の世界①7

金子總子・訳

gěi wǒ yī diǎn xiǎo zì yóu
给我一点小自由

niǎo r tiān shàng fēi
鸟儿天上飞，

yú r shuǐ lǐ yóu
鱼儿水里游。

wèi shá bǎ wǒ guān lǐ wū
为啥把我关里屋，

duì zhe chuāng fā chóu
对着窗发愁。



bà ba pà wǒ shuāi le tuǐ
爸爸怕我摔了腿，

mā ma pà wǒ pèng le tóu
妈妈怕我碰了头；

yòu pà wán tǔ nòng zāng shǒu
又怕玩土弄脏手，

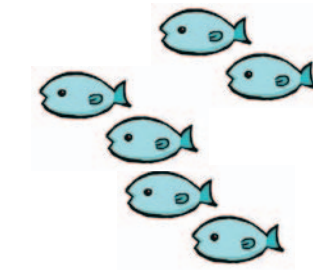
yòu pà zhāo liáng bí tì liú
又怕着凉鼻涕流。

qīng sōng lì zài gāo dǐng
青松立在高顶，

méi jūn cáng zài yīn gōu gōu
霉菌藏在阴沟沟。

bà ba mā ma xiǎng xiǎng ba
爸爸妈妈想想吧，

kuài gěi wǒ yī diǎn xiǎo zì yóu
快给我一点小自由！



もっと自由にさせて

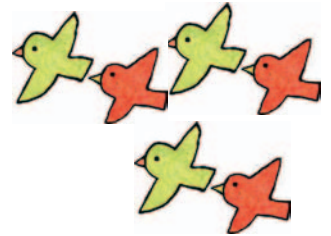
鳥は 大空を飛び

魚は 水中を泳いでいる

なぜか 私は 閉ざされた

部屋の中で

窓に向かって 愁いている



父さんは 私が

足に怪我をしないかと心配し

母さんは 私が

頭に怪我をしないかと心配する。

泥んこ遊びは 手を汚すことを心配し

風邪を引いて 鼻水を流すことを心配する

松は 高い山の 頂に立ち

ばい菌は 日陰のどぶに 詰まっている

父さん母さん

ちょっと 考えてみてください

すぐに もっと自由にさせて！



元寇と鷹島 (その2)

寺西 俊英

前号で、今は長崎県松浦市の鷹島町となった「鷹島」という小島と、友人のMさんがこの島に住んでいたことを紹介した。

町田市在住のMさんは、すでに後期高齢者の仲間入りをされているが勉学への意欲は若い人に負けない。1992年の大連留学(大連外国語学院)を皮切りに2010年まで19年間に15回中国各地の大学に6週間程度の短期留学をされ、中国語や中国の歴史や文化の勉強を続けてこられた方である。しかも日本に帰ってからは、都度自分のメモをもとに100ページから150ページのお手製の「〇〇短期留学記」を作られている。私も何冊かいただいたが、内容の面白さ、緻密さ、発想の豊かさはこの種のどの本より優れていると思っている。(絵がお上手で随所にご自分で描かれたイラストが入っている)15回の留学の中で上海を中心とした地域の大学の留学には、よく「新鑑真号」に乗船されたという。

この「新鑑真号」について触れてみたい。新鑑真号は、1985年7月に大阪・神戸と上海を結ぶ航路にデビューした貨客船「鑑真号」の後継船である。今年がこの航路開設30周年を迎えたことになる。初代の鑑真号(9,280トン、旅客定員554名)は沖縄航路の貨客船「飛龍」を改造した船である。老朽化のためか1994年に尾道造船で建造された14,543トンの「新鑑真号」が二代目として投入された。鑑真号の名称は、伝戒の師として幾度の苦難を乗り越え日本に来られた鑑真和上から頂いていることは言うまでもない。(鑑真和上については、わんりい195号=2014年7月号に詳述した)。

「鑑真号」および「新鑑真号」は、中国国際輪渡有限公司という中国籍の船舶である。大阪南港と神戸港を隔週で出航し、48時間かけて上海に着岸する。航路は瀬戸内海を西に舵をとり、関門海峡



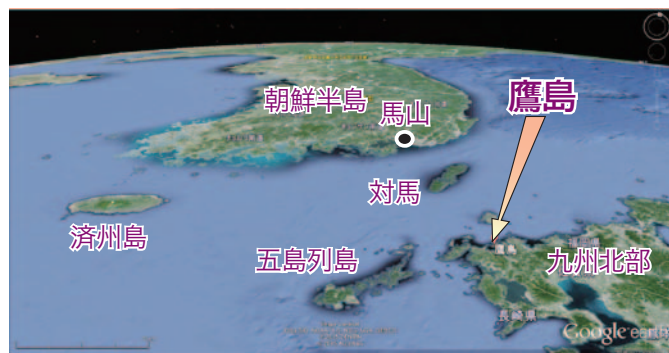
神戸ポートターミナルに接岸中の「新鑑真号」

(ウィキペディアから転載)

を通過して日本海に出る。それから壱岐島を右舷越しに見ながら東シナ海に入った後、一路上海に向かう。国際航路であるからパスポートは必要である。運賃は最も安い2等船室が朝食込みで片道2万円だ。ただし飛行機と同じように片道2千円の燃料サーチャージを取られる。学生割引もあるので時間に余裕のある学生向きではある。私も今は毎日が日曜日なのでいずれこの航路で旅をしたいと思う。

再度、Mさんの登場である。なぜ2日もかかる航路を利用されるかである。今は飛行機に乗れば3時間で上海に着くのに、なぜ新幹線で大阪に行き、大阪南港から48時間を要する船に乗るかである。もちろん船旅は、時間を要しても飛行機にない良さがある。しかしMさんの場合もっと大きな目的がある。それは、日本海に出てしばらくして壱岐島を通り過ぎると、遠くに「鷹島」や「的山大島(あずちおおしま)」の島影が望見できるのである。実はMさんは大連生まれであるが、引き上げ後父親の仕事の関係で鷹島や周辺の町に住んでいたことがあるのだ。若い頃の思い出が詰まっているこの島、この地域を船上から眺めることこそが乗船の大きな目的になっている。

さて、2回の元寇を辿ってみたい。まずは「文永の役」である。1274年の11月11日～26日であるから16日間戦闘が続いたことになる。元



九州北部と対馬海峡 (グーグルアースにて作成)

寇を学校で習ったとき、「たまたま神風が吹いて元軍は打撃を受け、事なきを得た」と先生が言われたように記憶していたので蒙古との戦いは数日で終わったように思っていたが、16日間もの戦いが続いていたとは・・・自分で勝手に描いたイメージとは違うものである。ところが「弘安の役」に至っては75日間続いたのであるから、ましてや台風シーズンに入っていたので1つや2つ台風が来てもおかしくないのである。〈たまたま〉国難から逃れたわけではない。ただ「文永の役」は、台風シーズンではないので果たして本当に台風が来たのであろうか・・・

ここで「元」の歴史を見てみよう。「モンゴル帝国」は、チンギスハン(1162年～1227年)が1206年に創った遊牧民の国家である。抗争を繰り返してきたいくつもの部族をまとめ、大集会(クリルタイという)で初代皇帝の座に就いた。大都(北京)に都を定め「元」という国を創ったのは、おなじみの第5代皇帝のフビライで1271年のことであった。このフビライが2度の元寇を仕掛けたのである。しかし、中国の歴史における元は100年と持たなかった。領土があまりにも広大となり自壊していったと言ってもいい。しかしモンゴル帝国の皇帝位は「北元」滅亡まで存続した。14代ハーンの時、(1368年)「明」の朱元璋に漢民族地域から追われてモンゴル高原に撤退した。それ以降、それまで中国を支配した元と区別して「北元」と歴史上呼ばれるようになった。別名を「韃靼」(だったん)と呼ばれた。北元は、「後金」のホンタイジ(後の清朝の第2代皇帝)に攻められついに

1634年に滅亡した。

次になぜフビライが日本に関心を持ったかである。後述するように当時の航海技術は未熟であり、しかも陸では強いモンゴル民族だが海を渡ってその向こうにある国を攻めたわけである。これにはきっかけがある。それは1265年、モンゴル帝国の高麗人の官吏が日本との通商を進言したことに始まるそう。またマルコ・ポーロ(1254年?～1324年)は、17年間もの長きに亘り中国に滞在し、フビライに重用されたが、何度も接見する中で黄金の国・日本の情報を伝えたとされている。

そのフビライは1266年から1272年にかけて6回もの使節を派遣した。最後は服属を迫ったが、拒否されたためついには武力侵攻を決意し、1274年の第1回元寇となったのである。攻めるは元と高麗王国の連合軍、守る日本は九州の地頭や御家人、それに松浦党である。松浦党とは肥前海岸に点在していた地元の武士団の連合体で水軍を擁していた。11月9日、モンゴル人の忽敦(クドゥン)を総司令官とした元・高麗連合軍(以下元軍と表示)は、水兵を含み2万7千人～4万人を乗せた約900艘の軍船で朝鮮半島の合甫(現在の大韓民国馬山)を出航した。まず目と鼻の先の対馬を問答無用で襲いかかった。対馬守護代の宗資国は80余騎で奮戦したが、多勢に無勢で全員討ち死にした。元軍は対馬に入ると島民の多くを殺害し、一部は捕虜とした。忽敦は文永の役から帰還した時、捕虜とした島民を奴婢として高麗国王とその妃(フビライの娘)に献上している。この時の対馬の惨状についての伝聞を日蓮は書き残しているが、あまりの残酷さにここでは文字にするのを憚られる。一方的に攻め寄せ多数の無辜の民を蹂躪したのである。

対馬で戦果を挙げた元軍は、11月20日に壱岐島に上陸した。ここでも守護代の平景隆が約100騎で応戦したものの全員戦死。さらに島民の殺戮などを行った。そして11月22日～23日元軍は肥前海岸や平戸島、能古島、そして鷹島に襲

来した。さらに26日に博多湾(早良郡)に上陸し、各地で戦闘が繰り広げられた。鳥飼潟の戦いが主戦場になったとの記述もある。いずれにしても双方ともかなりの犠牲を出した。「高麗史」によれば、元・高麗連合軍は夜になると全員軍船に戻り軍議を開いた。そこでは兵が疲弊していること、司令官の一人である左副元帥・劉復享の負傷、一方では日増しに増える日本軍に対し、これ以上戦うべきでないとし、撤退することにしたという。

この時期は、当時の艦船では、博多―高麗間を

北上するときは南風が吹く晴れた昼間でなければ危険とされていたにもかかわらず、夜になって撤退を強行し海上で大シケに遭遇していくつもの艦船が崖に突き当たり沈没したらしい。11月27日に何とか一部の艦船は合浦に帰還したという。元の資料、高麗の資料、日本側の各種の資料を突き合わせると何が事実か分かりにくい、いずれにしても台風に遭遇したから撤退したのではなく、帰還する途中で悪天候に見舞われたのが定説のようである。(つづく)。

中国の笑い話 25 (「365夜笑話」より)

翻訳：有為楠君代

第75話：誰が一番か

父親「世界で一番背が高い人は、アメリカの R.F. ウェイドロウという人だそうだ」

息子「高いって、1丈(約3.3メートル)くらい？」

父親「2.72メートルだそうだ、1丈まではないな」

息子「じゃ、おじいちゃん(母方の祖父)の方が背が高いよ！」

父親「バカ言うんじゃない！どうしてなんだ？」

息子「だってお父さんはおじいちゃんのこと「丈人(岳父や老年の男子に対する尊称)」って呼んでいるじゃないか」

第76話：私にも分からない

日本の古典学者・菅弘庵は、もったいぶるのが好きだ。手紙を書く時はいつも、毛筆を使って、分かり難い草書体で書いていた。

ある時、弘庵の著作が弟子達の手によって出版

されることになり、その中の1巻を《書簡集》とすることにした。或る弟子が、彼の書いた手紙を持って彼を訪ね、遠慮がちに言った。

弟子「先生、僕は浅学非才で、先生のお書きになったお手紙で、どうしても読めないところがあります。教えてください」

しかし、弘庵自身にも読めなかった。

弘庵「このようなことは、もっと早く言ってくれなくては困る。今となっては、私自身も読めないよ」

第77話：試験

或る学生が中間試験で答案が書けず、答案の余白に「この答は、神様しか分からない。メリークリスマス！」と書いて提出した。後日戻ってきた答案の上には、先生のコメントがあった。

「神様は満点、君は零点。楽しいお正月を！」

**‘わんりい’は、いつでも新入会を歓迎しています。年会費(4月～3月)：1500円 入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 ‘わんりい’ 入会時期によって割引あり。お問合せ：下記。**

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると、

①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。

②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

四姑娘山は四川省アバ藏族羌族自治州小金県に在りますが、この小金県は林檎の産地として有名です。栽培の歴史は1959年に文川流域から移植した林檎の苗160株に始まり、1970年代の全国品評会で何度も一位や二位に選ばれて、林檎の産地として有名になったそうです。四姑娘山下流の標高2400m前後の畑で、9月末から10月中旬に掛けて本格的に林檎が収穫されます。種類は金冠(アメリカのゴールデンデリシャス)と紅富士(日本のフジ)がほとんどで、金冠の方が先に収穫が始まり紅富士は後になります。

収穫の時期になると大きなトラックがやって来て、農家は林檎を詰めた20kg入りの袋を積み込みます。林檎の渡し価格は金冠の方が安く、凡そ0.5元(10円位)/kgと安いのですが、大都市での小売価格はだいたい10元(200円位)/kgになります。

紅富士の価格は金冠の約2倍です。大都市の大手スーパーが時々普段の半値で青果物をセールする事が有り、どうしてこんなに安くなるのだろうと思っていましたが、産地から直接仕入れて自分で運べば簡単に出来るようです。裏を返せば当地の流通システムは合理化の余地が大きいと言えるようです。

小金の林檎はほとんど農薬を使ったり袋掛けしませんので、写真を見てお判りの通り表皮が綺麗ではありません。そのため大都市の大手スーパーではあまり売られず、団地の傍に在る青果市場のような小さな店で売られています。金冠の方は花摘みや摘果等^注の手を掛けなくてもそこそこに形良く美味しい実になりますが、紅富士の方はそうは行きません。

私は日本では富士の系統の林檎に慣れていましたので、当地で住むようになってからも、もっぱら富士の系統の林檎を食べていました。それまで日本

や当地で食べた事の有るゴールデンデリシャスや金冠は、歯触りがモソツとしていたり甘みに爽やかさが欠けていたりしたからです。やがて3～4年前から林檎の価格が値上がりし始め、形良く美味しい紅富士はほとんど大都市へ高値で出荷されてしまい、地元の市場にあまり出回らなくなりました。地元の市場にもっぱら出回る紅富士は小さかったり虫食いの孔が有ったり甘みが少なく不味いため、

仕方なく私は成都へ出掛けた時に富士の系統の林檎1箱10数kgを買って帰るようになりました。

しかしこの頃、小金で偶々口にした金冠の歯触りがサクサクしていて甘みも爽やかで甘酸っぱく紅富士よりも美味しかったため、金冠を見直しました。その後の調べで、金冠は木で適度に熟して摘み取った後高々1週間以内がこのような美味しい事



黄金県「金冠(ゴールデンデリシャス)」種の林檎

が判りました(紅富士はサクサクした歯触りや爽やかな甘みが長続きするため大都市で流通させるのに適しているようです)。それ以来、収穫の時期になると、朝採りの美味しい金冠を小金や丹巴(丹巴でも金冠や紅富士を作っています)の市場で探して買い求めるようにしています。

■注：林檎は開花直前から開花時期に優位な花を残す「花摘み」と、結実後30日位に実を間引く「摘果」の作業が必要で、虫除けのため果実に袋掛けする場合も有ります。

●大川さんのホームページはこちら

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>

▶お知らせ：女王谷のHP

(<http://rgyalmonrong.info/>)に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ(MP4形式8MB前後)1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ」でご覧になれます。

(<http://rgyalmonrong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>)

タミル人と日本人

陽光新聞社・顧問
塩澤宏宣

私事で恐縮ですが、大腸がんが見つかり、去る9月18日に手術しました。幸いにして早期発見でしたので、術後10日で退院できました。皆様にも検診をお勧めします。というわけで、今月のテーマはベッドで考えたことです。

今から25年前、定年退職後、以前から考えていた「日本人のルーツ」を学ぼうと考えました。

といっても、あまり学術的なものではなく、ごく趣味的な範囲ですが。そこでまず、図書館通いをはじめました。最初に目に付いたのが大野

晋氏^注の「日本語の起源(岩波新書)」でした。

大野晋氏は、「日本とは何か」を解くために古代日本語の研究をはじめ、そこで行き着いたのが、南インドのタミル地方と古代日本の関係とのこと。内容をかいつまんで記します。



紀元前500年ごろ、水田耕作・金属の使用・機織という文明複合が一挙に北九州から始まった。そこから弥生時代がスタート。長い間、狩猟・採集・漁労を主体として生活してきた縄文時代に突然現れた水田耕作は、朝鮮あるいは、中国の江南から渡来したとされるが、言語学者の大野氏によれば、タミルからきたという考えにいたる。その理由は2つある。

まず、最古のタミル語(BC200～AD200)と最古の日本語(AD700)とを比較すると、この2つの言語には種々の対応が見出せる。

1. 約500語の語根がきちんとした対応がある。
2. 文法が共に膠着語である。助詞・助動詞が名

詞・動詞の後にくる。20語の助詞・助動詞の対応がある。

3. ゾ・カ・ヤの係り結びを共有する。
4. 五七五七七五七七…の長歌形式、五七五七七の短歌形式を共有している。
5. タミル語は子音終わりの音節があるが、日本語はすべて母音終わり。縄文時代の日本語が母音終わりであったものを受け継いだと思われる。現代日本語の基礎はこの時に確立され、以降それが伝承されてきたことが分かる。

次に、約500の対応語の中に文明に関する単語が含まれている。

▲農耕…アゼ(畔)、ウネ(畦)、タンボ(田んぼ)、ハタ(畑)

▲農作物…アハ(粟)、カユ(粥)、コメ(米)、ナヘ(苗)、ヌカ(糠)、ヒネ(古米)、モチ(餅)、ワセ(早稲)、ワラ(藁)

▲金属…カネ(金)、タカラ(宝)

▲機織…アゼ(綜)、ウム(績)、オル(織る)、カセ(杼)、ハタ(布・旗・帛)

縄文時代には、これらの「モノ」自体がなかった。それが弥生時代に一齐に出現した。その「モノ」の名がタミル語と日本語と同じであることは、これらの事物がタミル語圏からもたらされたことを示すと思われる。

タミルと日本の関係を考える上で、こうした「モノ」に関する単語が一致するだけではない。日本人の精神生活に関する単語にも対応が見出せる。カミ(神)、マツル(祭る)、ハラフ(祓う)、イツ(稜威)、イミ(忌み)、ウヤマフ(敬う)、アガム(崇む)、コフ(乞う)、ツミ(罪)、ノム(祈む)、ハカ(墓)、ヒ(霊力)、モノ(怨霊)など。日本古来の宗教意識にかかわる単語の大部分が含まれる。

日本の古代の「カミ」の特質は次のようなものであった。

1. たくさんいた。八百万のカミ

2. 本来、どこにいるか分からない、見えない、姿のない存在
3. 食物をマツリ（祭り）、祈願すると、その場所に来臨して人間に幸せを与えると信じられていた。
4. カミの怒りに触れると、カミは人間に死を与えた。
5. カミは「雷」や「山」を意味することもあった。
6. カミは高天原にもいて、それは山などに降下し、峠などを占有していた。人間は通行に当たって幣（ぬさ）を供えて通行の許可をもらった。
7. カミは「古事記」や「日本書紀」で人間化され、男の神（イザナギ）・女の神（イザナミ）のように結婚して島々を生んだ。
8. カミは一定の地域を支配する力を持った。
9. 「古事記」などに「悪神（アラブルカミ）」が登場するが、すべて天皇家に反逆する地方領主を指している。カミは領主、つまり地方の土地の支配者でもあった。

タミル語に「カミ」の対応語がある。それは超能力を有し、かつ、支配者でもあった。カミは姿を見せず、降下する場所を設けて酒食を供え、来臨して人間に幸福を与えるという。また人間は吉事を願ったり、悪事の償いをするにはハラヘ（祓い）をする。モノ（怨霊）を恐れ、それにモノを供えて宥めようとする。タミルからは文字の輸入はなかった。タミル文字がタミルの地で広まる前に、両国の関係は切れたものと考えられる。



私たちは、日本文化のルーツは中国と朝鮮にあると教えられてきました。地図上の位置から考えれば、それはごく自然だと考えてきました。しかし、日本列島にはポリネシアから黒潮が流れてきます。あながちタミルから文化が流れてきても不自然ではないと感じました。一種のロマンを感じ

たしだいです。大野氏のこの学説に対しては、否定する学者が多く、大野氏もあえて反論はしていないようです。

ここでロマンついでに、タミルについて触れてみたいと思います。タミル人は南インドからスリランカにいたる地方に多く住むヒンドゥ教徒です。旧セイロンが英国から独立する時、シンハラ人（74%：仏教徒）とタミル人（18%）が争いました。長期間の内戦で死者も多数に上りました。タミル語はインドをはじめ、スリランカ・シンガポール・マレーシアで使用されています。

世界地図を広げてみれば、南インドやスリランカから日本は相当長旅だったと思います。遠い昔、丸木舟に乗ってインド洋を渡り、太平洋の黒潮に乗って日本にたどり着く…。ロマンなくしては語り明かせないと思います。外国人に言わせると、日本人ほど歴史に関心を寄せる国民はいないといえます。たしかに私もそう感じています。というのも、日本は1万数千年前の縄文時代からの遺跡はあるからではないでしょうか。さらに科学の領域まで取り込んだ実証主義的歴史学が、理屈っぽい日本人にはいっそう受け入れやすくなっていると思います。

今回取り上げた「タミル人と日本人」は、その点では幾分劣っているようですが、すべての文化のルーツが「中国・朝鮮から」渡来したという考えに納得できない人々にとっては興味ある話題ではないでしょうか。

■注

大野 晋（おおのすすむ）：1919～2008年。東京帝国大学文学部国文学科卒国語学者。文学博士。学習院大学名誉教授。

古代日本語の音韻、表記、語彙、文法、日本語の起源、日本人の思考様式など幅広い業績を残した。主著は『日本語の起源』『日本語の文法を考える』『日本語の形成』『日本語練習帳』など。（ウィキペディアより）

仏光寺と梁思成

鄧仁有

■ 仏光寺

五台山・仏光寺は1961年に国務院によって中国の重要文化財に指定されました。寺内には、北魏、北斉、唐、宋、金、明、清時代の建築や文化財が残されています。これは全国でも稀に見ることです。『古清凉伝』の記載によると、仏光寺は北魏の孝文帝の時に創建されて、すでに1500年の歴史があります。伝えるところによると、孝文帝がこの地を訪れた時にめでたい「仏の光」が射しているのを目撃し、以後このお寺を「仏光寺」と呼ぶようになりました。

中唐の時代に、この寺の規模は最大となり、三層七間、高さ32mの弥勒大閣が建ち、参拝者も多く、大変盛んでした。ところが、唐の武宗会昌5年(西暦845年)、道教を厚く信仰した武宗の廃仏令によって、寺の建物のすべてが打ち壊されてしまいました。やがて会昌年間の廃仏が終わり、大中11年(857年)寧公遇という一人の女性の寄進によって弥勒大閣の跡に現在の東大殿を建立したのです。そして東大殿は宋、金、明、清の時代にそれぞれ修復をして現在に至っています。

仏光寺には、貴重な文化財が多く残っています。建築としては、唐代の東大殿、宋時代の文殊殿。また唐の時代に作られた仏像、壁画、墨蹟があり、これらは仏光寺の「四絶」と言われています。それ故に中国の歴史的文物の宝庫として内外に名を馳せています。

■ 梁思成¹⁾と仏光寺

仏光寺というと、その発見者の梁思成と妻の林徽因^{りん ぎいん}を語らねばなりません。梁思成は中国の建築史家、建築家です。父は清朝末期の改革派の梁啓超です。



梁思成(ウィキペディアより)



857年に建立された東大殿(ウィキペディアより)

一体、この仏光寺はどのように発見されたのでしょうか？

これについては次のような話が残っています。1937年6月末のある夕方、梁思成とその夫人、二人の学生の四人は口バに乗り、荷物を積み、仏光寺に足を止めました。一行の目的は唐代の建築物を探ることでした。30年代当時日本の学者は、中国では唐代の木造建築を見る事は既に出来ない。建築学者が唐代の建築を研究するには、日本の奈良や京都に行かなければならないと断言しました。

確かにそれまで中国では、西洋ほど建築芸術は大切にされませんでした。誰も中国の古い建築の調査や研究をしなかったのも、中国には唐代の木造建築は残っていないと思っていました。しかし、共にペンシルバニア大学で建築学を学んだ梁思成夫婦はアメリカから帰国後、古い建築物の調査を始めました。1932年からの5年間で2,738の古い建築物を調査しました。しかし、唐代の建築物は発見されなかったのです。

ある日、梁思成是北京図書館でフランスの探検家ペリオの描いた「敦煌石窟」を見ている内に、第61窟の宋代の「五台山全図」にある「大佛光之寺」の今まで見た事の無い塔に興味を持ちました。彼は直ちに明代の鎮澄法師^{ちんちやう}の著した「清凉山誌」を調べ、仏光寺は五台山の中心地に位置していないことがわ

かりました。経験によると、辺鄙な所には古建築がよく残されていると思い、山西省へ調査に行くことにしました。

山西省を訪れてから、彼らは辺鄙なところに「仏光真容禅寺」を見つけ足を止めました。梁思成は山門に入るや否や仏光寺の建築物を見て、「**料拱**^{と きょう}²⁾」は雄大で、庇が深く突き出ている典型的な唐代の建築物だ」と叫びました。梁思成は国内にも唐代の木造建築が必ず残されているとの信念を持ち続けていたので、ここでやっと実物が検証されたと言って喜びました。

国際交流員として2004年から2年間、青森県に来日した鄧仁有さん。その後帰国され、山西省太原市にある旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、山西省の名所旧跡をご紹介します。

■注

- 1) **梁思成**(1901 ~ 1972): 中華人民共和国の建築史家、建築家。父の梁啓超が清朝末期の戊戌の変に破れて日本へ移り住んだため東京で生まれた。横浜、神戸と転居し12歳まで日本に在住し、その後中国へ帰国した。中国の古代建築の研究と文化財保護に尽力した。江蘇省楊州にある「鑑真紀念堂」は梁思成による建築作品の一つ。
(ウィキペディアより)
- 2) **料拱**(日本語表記では斗拱): 建築用語。建築物の梁や桁^{けた}にかかってくる上部の荷重を集中して柱に伝える役目をもつ部材の総称。組物ともいう。
(コトバンクより)

《‘わんりい’掲示板 I》

◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!**

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体の力を抜いて、気持ちよく発声しよう!!

▲11月の講座: 30日(月) まちだ中央公民館・視聴覚室
▲時間 10:00~11:30

★動きやすい服装でご参加ください

- 11月の練習歌「心の瞳」
- 講師: Emme(歌手)
- 会費: 1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- 定員: 15名(原則として)

◆申込み: ☎042-735-7187(鈴木)
E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(わんりい)

《オープンボイス合同コンサート》

Emmeさんを講師に迎えている講座の合同発表会です。
‘わんりい’の講座は「心の瞳」を歌います。

2015年12月5日(土) 14:30 ~ 16:30(予定)
参加費: 3,500円

会場: 四谷天窓 Comfort(コンフォート)
169-0075 新宿区高田の馬場-4-11
BaBahatchi 5F ☎03-5338-6241

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を!

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついで折に田井にお渡し下さい。

◆わんりいの催し **中国語で読む・漢詩の会**

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!

▲日時: 11月8日(日) 10:00 ~ 11:30

▲会場: まちだ中央公民館 第3・4学習室

▲講師: 植田渥雄先生
(現桜美林大学孔子学院講師)

▲会費: 1500円(会場使用料・講師謝礼など)

▲定員: 20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み: ☎090-1425-0472(寺西)
E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)



初心者のための水墨画教室

【鶴川水墨画教室】体験のお誘い

来年の干支=猿を墨で描く体験会を開催しています。
気楽にご参加ください。

- 講師: 満柏(日中水墨協会会長)
- 場所: 市民センター(駐車場有)

〒195-0062 東京都町田市大蔵町1981-4

●曜日・時間:
毎月第2、第4(月)
14:00 ~ 16:00

●体験参加費: 1000円
見学: 無料

●問合せ: 野島
☎042-735-6135



「スリランカにも、大乘仏教が伝わって栄えた時代があったよ」と、タランガッレ・ソーマシリ師は口にされていた。「いつか、そのブドゥルワーガラにつれて行ってあげようね」と、約束して下さっていた。スリランカ仏教史によれば、仏教が広く広まったのは紀元前3世紀頃である。インドからアショーカ王の王子マヒンダ長老が来島し、仏教教団を確立したことに始まっている。

少し時代が下がるが、紀元前1世紀頃、その後のスリランカ仏教史に、大影響を及ぼす教団の分裂が起こった。保守派・大寺派、大乘の教えを容認した無畏山寺派に分立し、更に紀元前2世紀には、祇陀林派が起こった。お互いに競合する状況となり、12世紀まで続き、王が大寺派に統一したことにより、スリランカ仏教史の中で、大乘仏教は消滅することになった。仏教が繁栄した背景には、王権と密接不離であったことが分かってくる。

🔥ブドゥルワーガラへの道

2015年3月1日、やっと念願が叶えられることになった。巡礼者の為に設計されたような僧院風のマンダラ・ローセンホテルを出たのは、早朝であった。スリランカの地図を広げてブドゥルワーガラの位置を見ると、ウェッラワヤとティッサマハーラーマを結ぶ幹線道路の分岐点から、数キロ走ったところにある。10分位走ったであろうか。舗装のされない道路の脇には、草木が密生していた。民家が見えなくなったと感じたところで、野原のような場所に出た。蝶が沢山舞っていた。先を歩

く外国人参拝者を見かけた。私たちも車を降りて、先ずは入場料を払って、ぽつぽつと歩き始めた。坂を登ったり、湿地、石橋…など、左の道を歩いて磨崖仏に続く道を500m位進んだ。暑いには暑いが、多少の木陰もあって、日傘を差していると熱射から免れる。黙々と歩いて、杖不要で大乘仏教遺跡岩壁前にたどり着いた。ブドゥル・ワラガラとは、

ブドウ(仏陀)、ルワー(像)、ガラ(石)で、それぞれの意味をつないで「石仏」と総称されている。石仏群は私に何を語りかけてくれるのであろうか。

🔥石仏ファンシー

石仏を目前にした瞬間、私は何とも言えない不思議な気持ちにかられた。中国の雲崗や洛陽・龍門で見た華麗な仏像のイメージではなく、もっと身近な日本の国東半島で出会った、簡素な石仏群に近い印象を抱い

た。日本仏教は、中央アジア・中国大陆・朝鮮半島などの北方廻りで広布されたとされている。しかし、ブドゥルワーガラに来てみると日本の大乘仏教は、セイロン・ビルマ・タイ・カンボジアなどの南方から伝播した海のシルクロードから日本列島にたどり着いたのではないかと思えるのである。

人間は生きている限り、悩み迷い苦しんで何かに救いを見出そうとする。古今東西の「仏教」に熱い注目が集まったのは、仏教の教えの深さの中に生きる答と救いを求めているのではないだろうか。

小乗仏教は、釈迦の直説を中心として編纂されているのに対して、大乘経典は独自の思想的発展が観られる。もっと簡単にいうとすれば、釈迦を永遠不滅の仏様としてこの世に現れたものととらえ



たり、大衆を救う菩薩の概念を創りだし、多岐多様な經典に纏められて登場する諸仏や人物が多彩を極めている。

ブドゥルワーガラにお参りするためにこうした大乘仏教に由来する、私たち日本人には身近な『浄土三部経』『般若経』『法華経』などの經典をちょっとだけ覗いてみるのも意外に味わい深く楽しい気分になれるのではないかなと思う。

🔥菩薩たち

ブドゥルワーガラ仏教遺跡に立つと、誰もが何処かで触れたような波動が伝わってきた。明らかに大乘仏教旧跡ではあるけれど、中国大陸で眺めたスケールの大きさはない。しかしながら、大乘仏教の「一切の人々の救いを目標とする」という教えがそこはかとなく伝わってきた。

巨岩に刻まれた15m位の仏陀の立像左右に少し小さめの仏像が見えた。右側は観世音菩薩で左側は文殊菩薩像のグループに見え、合せて7体である。「菩薩」は、敢えて仏にならず人々を救うために頑張っている存在である。大乘仏教で主流を占める菩薩たちの身体は、ゆったりとした着衣を纏っている。イヤリング・ネックレスなどのアクセサリーも身に付けておられ世俗的である。中でも観世音菩薩は一番身近な現世利益をもたらしてくださる仏様として知られている。もともとの観世音菩薩像は女性なのか男性なのか？性を超越した姿であるけれど、ここの観世音菩薩像はヒンドゥ教の影響を受けてか女性らしい豊かな表情である。一方の文殊菩薩は学力の向上を叶えるような受け止め方をされているけれど…、私は人間としての徳を高め心を磨く精神界の源だと理解している。

古の民がここに来て「慈悲と智慧」にあやかりたいと願って合掌した情景が浮かんできた。もっと前に近づいてみると磨崖仏の頭上から黒い色が染みだしている。油性のものか？現地の人にはその石



仏を拝すると万病に効果があると信じられているらしい。他方に赤い色が付いている立像があり、その昔、色彩豊かな仏群であったのが、年月を刻んでいくうちにかすかな色を残すに至ったのであろう。右の奥の方の仏道に目線が流れた。金剛杵を持っているのは密教像の証明である。密教は7世紀に出来上がり、日本伝来は9世紀前後だと言われている。密教についてもごま祈祷などにエスカレートしていくと壮大な宇宙観が迫ってきた。

周囲に気を廻すと、観光客はいなくなり木の茂みと岩場の石仏群が残され静寂が戻った。私たちはこの空間の広がりや深さの中で生き方の再確認ができるかもしれない。スリランカの文化三角地帯の華やかさはないけれどブルドゥワーガラに根付いた仏教精神を垣間見た気がした。

【‘わんりい’の原稿を募集しています】

‘わんりい’は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又‘わんりい’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりい’に掲載の記事などについても、簡単な感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル ‘わんりい’

韓国鬱陵島の最高峰・聖人峰と釜山の金井山(1)
(2015年8月29～9月3日)

関根 茂子

ツツジとオオバヤマレンゲを堪能した太白山登山から3か月後、S姉のお誘いで再び韓国の山旅へ出かける。今回の参加者は、毎回参加のTさん、S姉のソウル北漢山山行で韓国山歩き初体験以来、韓国の山にはまってしまったUさん(彼は2年間ハングル会話を学び、今や自前で韓国の山旅を楽しんでいる)、S姉、相変わらず文盲状態の私という4人だ。

鬱陵島といっても、私にはラジオの気象通報でよく聞いた地名というぐらいの知識しかない。この島は海底火山の活動によってできた島で、東京の八丈島と同じぐらいの面積(72km²)で、浦項から船で3時間余だ。最大の付属島は90kmに位置する独島で、日韓の領土問題になっている竹島である。北の東海墨湖港からも船便が就航しているが、時間的に速く島に行かれる釜山→浦項→鬱陵島の経路で行くことになった。

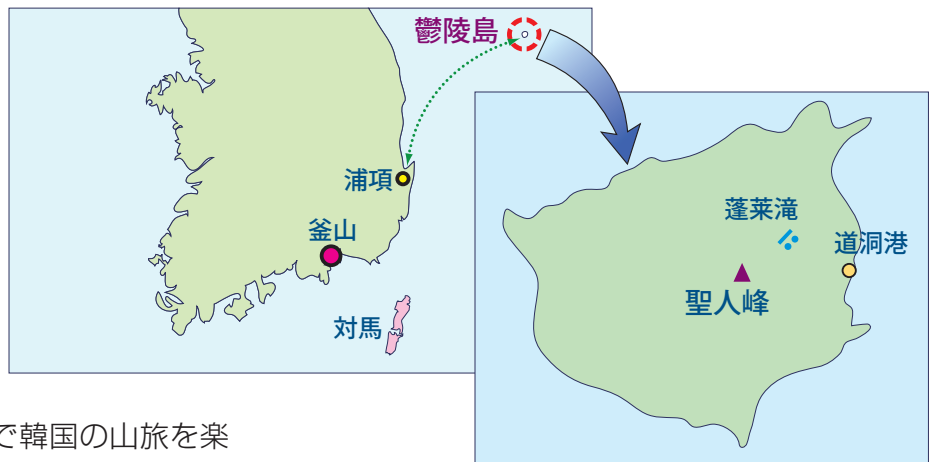
なお、S姉は8年前にも鬱陵島に渡り、最高峰の聖人峰に沢登りで登頂したとのことだ。

◆8月29日 成田発 12:45(大韓航空KE716)
→釜山金浦 14:55 着、地下鉄で老圃バスセンター→浦項泊

釜山の金海空港で共同山行費＝1人20万₩(ウォン)を集める。両替レートは1万円が91,100₩で去年よりは少しだけましだ。

まずは無人運転の空港線で金浦から3つ目の沙上へ(13,000₩)出る。ここから西面で2号線に乗り換え老圃にあるバスターミナルへ向かう。

移動に便利のように、交通カード(デポジット2,000₩とチャージ1万₩)を買う。自動販売機に指示通りに操作、4人分のお金を入れたのに出てきたカードは2枚だけ! 文句を言おうにも言葉は不自由の上、無人駅なのだ。再度、2枚分を買わ



ざるをえなかった。

地下鉄に乗り、ノボから17:10発のバスで浦項に18:40着いた。ターミナル近くのモーター「夢」に泊まる(3人部屋10万₩、シングル5.5万₩)。夕食は宿の近くでラーメン@4,000₩、冷麺@6,000₩の好きなほうを食す)平均71歳の御一行さま、異国の山旅の初日だ。

◆8月30日 浦項(高速船)→鬱陵島(道洞港)→民宿へ

宿の朝食(トースト・卵)の後、7:25にタクシーで港へ行く(6,100₩)。乗車10分で到着。早かったので、2階席の切符@64,500₩を65歳以上の敬老割引で買えた。それでも1人51,900₩、バスや鉄道と比べると高い。10:30出航、波穏やかに130キロ東へ、道洞港に14時頃着いた。熱心な客引きの民宿の小母さんについていって、まああの宿のオンドル1部屋に4人2泊で、10万₩で決めた。「割高? とも感じるが、今は観光地だから…」とS姉の言。

午後は浜辺の散策、私がひとところスケッチに邁進していると、S姉とUさんは運動不足と対岸の岩壁沿いの遊歩道を歩きたいと別行動になる。

S姉は「それにしても港の変わりようには驚いた。漁業が衰退して…」というニュースは聞いていたが、桟橋は一新され、広く大きな建物となり、浜辺のイカ干場だった所は、観光バスの駐車場にな

り、陸揚げされた新鮮なイカを売っていた小母さんたちが、かろうじて片隅に陣取っていた。観光客のためには仕方ないか…。あれから8年もたてば～「ひなびた漁村風景も変わり、民宿・ペンション・ホテルが増え、土産物店や食堂なども垢抜けした店が多く、カラオケやサウナなど、びっくりすることばかりだ」と感慨深げだった。

夕食は大皿いっぱい*のイカ*、ヒラメ、サザエ、ホヤの刺

身盛り合わせ、飲める3人にビール各1本、飲めない私は白いご飯で刺身をうさん持参の日本のわさびと醤油でおいしくいただく。というのも、うさんは智異山登山後、三陟で楽しみにしていた日本海産の刺身を食べたところ、「韓国のわさびと醤油でイマイチだった」というのだ。また、この地ではレタスやエゴマの葉に刺身を置いてコチジャンをつけて葉っぱでくるむ食べ方も一般的のようで、刺身をとるとレタスやエゴマの葉を盛った皿も出てきた(計9万₩)。

◆8月31日 聖人峰ハイキング 約7時間

朝7時、蓬萊の滝まで行くバス(@1,600₩)に乗る。S姉は「滝までの道の様子は変わっても滝は同じだ。」という。5月に買い求めた韓国版二百名山掲載の地図に赤線が入っている、こちらから聖人峰の尾根へ上がる道を登る計画だから、それらしい道を探しながらバスで上がった道を歩いて戻る。どう見てもそんな道は見つからなかった。

仕方なく芋洞港からタクシー(1万₩)でKBS(韓国放送公社)アンテナの登山口まで上がって、9時過ぎに歩きだす。見れば、取付きの畑にツルニンジンが栽培されていた。ネットで調べたら、チョウセンニンジンと同じ効用があり、3年かけて大きくする。本物にある特有の匂いがなく生食でも食べられているということだった。



蓬萊滝は原始林の間に落ちる3段の滝。上段は高さ25m。

緩やかな尾根道に行くのは私たちだけ、山頂まで4.1kmで歩きやすい。二百名山の地図では尾根に赤線が入っているが、歩いている道はほとんど尾根線の下を巻いている。標高530m辺りでやっと直登する道と出会う。(10:23)ここで休んでいた地元の登山者夫妻が、わざわざ湯を沸かしてコーヒーをご馳走してくれた。おまけに、お手製のキンパブ(海苔巻)を3本も手渡される。昼はパンしか持って

いなかったのうれしかった。

ひとしきり急な木段登りを13分がんばるとあずまやが出てくるが、休むには早すぎる。道は巻き登りとなり、なんとササに埋もれてオオミズミソウの三角形の葉が結構見られた。やっと尾根にのる。(11:19)地図上の尾根通し道には×印の通行禁止標示があった。

ここから山頂までは1.1kmだ。カエデの交じるブナ林の尾根道をたどり、ナナカマドに囲まれた聖人峰に到着(11:55)、生憎、霧におおわれ展望はない。年平均300日以上も霧に包まれている山頂というのだからしかたないか。(続く)



聖人峰山頂。頂上の祭壇のような岩は将軍の足跡といわれており、この足跡は左足のため、本土のどこかに右足の足跡があると伝えられている。

手作りワンタンで交流しよう会 … 講師：郁唯 町田市民フォーラム・料理室 2015年10月18日(日)



今回の活動の参加者、15名中、中国出身者が講師の郁唯先生と留学生の顧傑君を含めて5名、加えてマレーシア留学生のジェイソン・プアさん、タイ国留学生のジャーケットさんが参加。上海風ワンタンの作り方と食べ方を

教えていただくと同時に、「手作りワンタンで交流しよう会」タイトルにふさわしい国際色ある活動になった。

皮の生地は餃子と同じだが、生地分量は餃子より少なく、「皮も出来るだけ薄い方が美味しいですね」

と、郁先生は鮮やかな手つきで皮を伸ばし、チョイチョイといとも簡単に魔法のように小さな看護師さんの帽子のようなワンタンを作って見せてくださった。

ところがである。中国出身の女性3名を除く参加者達は、先ず生地を薄くのばす事で悪戦苦闘、その後は餡を入れて成型するのがなかなか思うように行かないのだ。時間を忘れて挑戦し、やっと少しなれた頃には材料が無くなり、一息ついて完成品を眺めると、先生の見本の倍はありそうなものや、一見餃子風のものまであって、受講者の苦戦のあとが見られた。

上海の家庭でワンタンをいただく時は、「大き目のお椀に鶏がらスープの素・醤油・ごま油をそれぞれ小匙半分ずつ入れ、ワンタンが茹で上がる直前に熱いお湯を椀の半分ほど注ぎ、茹で上げたワンタンの茹で汁を切って入れる。彩りに香菜か小ねぎと軽く炒っ



た桜海老を上に乗せて頂く」とのこと。この手軽さで、ワンタンがぐっと身近になった。「家でもやってみよう」という声を沢山聞いた。

ワンタンを茹でている間に、キャベツと油揚げの素炒めを用意する。ごま油を熱して、鷹のつめを入れ、香り移してからキャベツと油揚げをいためて塩・コショウを振り、最後に黒酢で風味を整える。

もう一皿は、タイ料理の春雨サラダ「ヤムウンセン」。春雨の輝く白に赤、緑、黄、黒と野菜の彩りが美しい。下準備さえしておけば、あっという間の仕上がりながら癖になる味だ。

女性に嬉しい「白キクラゲ・赤棗・蓮の実」の薬膳デザートに、季節のブドウ、更に、この秋目出度く早稲田大学大学院の修士課程を卒業の顧傑君の帰国土産の月餅もあって、和気あいあいと食欲の秋を堪能した。



手作りワンタン

◆皮の材料(4人分)

薄力粉 190g、強力粉 10g(45～50個)/水 120cc

【生地の捏ね方】

- ①ボールに薄力粉と強力粉を合せ入れて均等になるまで混ぜる。
- ②水を少しずつ加えて軽く混ぜ、用意の水を全部加え終わったら、よく捏ねる。

※生地材料は、1～2時間ほど寝かせる。

※冷蔵庫には入れない。

【皮の伸ばし方】

- ①寝かせておいた生地を適宜分けて棒状にまとめる。
- ②端から小さくちぎって丸め、できるだけ薄く平らに伸ばす。

※丸形の皮になる。

※薄く延ばすのが難しい時は、ある程度の分量を纏めて平に伸ばし、6cm角程度に四角く切り分ける。

◆ワンタン用餡の材料

豚肉の挽肉 250g、冷凍むき海老 100g、ネギ 1/2本
生姜小 1/2片、青梗菜(又は小松菜)大 3株

調味料：料理酒大さじ3/醤油小さじ4、塩小さじ1/2

鶏がらスープの素大さじ1(水大さじ3で溶かしておく)

【餡の作り方】

- ①青梗菜(又は小松菜)を湯通しし、みじん切りに切る。
- ②解凍したエビに料理酒大さじ1(上記と別の分量)を振りかけて暫く置き、フードプロセッサーに掛ける。
- ③生姜、ネギをみじん切りにする
- ④挽肉にネギと生姜と料理酒を合せて、ひと混ぜして、エビを加え、溶いておいた鶏がらスープ、醤油、塩を加えて、粘りが出るまで同じ方向によく混ぜる。
- ⑤青梗菜(又は小松菜)を絞って、②に加えて、ひと混ぜする。

【スープの準備】

お碗に鶏がらスープの素を小さじ1/2、醤油小1/2、塩と胡椒少々、ごま油小さじ1/2を入れて用意し、ワンタンが茹で上がる直前にお湯を碗の半分ほど入れる。別に、小葱を小口切りしたもの、軽く炒めたサクラエビを用意して置く。

【ワンタンの茹で方と食べ方】

- ①鍋にお湯をたっぷり沸かし、ワンタンを加える。
- ②3～4分して浮き上がってきたら差し水する。
- ③再度お湯が沸いて来たら、一分ほど煮てワンタンのお湯をよく切り、用意した碗に入れる。小葱と桜エビを上に乗せて頂く。あれば香菜も欲しい。熱い内に頂く。

タイ国風春雨のサラダ・ヤムウンセン

◆材料(4人分)

春雨 50g、豚肉 100g、ゆーり 1本、トマト大 1/2個

サクラエビ(乾燥) 5～7g、紫玉ねぎ 1/4個、きくらげ(乾燥) 5g、セロリ 1/2本/レタス 1/4個調味料レモン汁 1個分(約大さじ3)、ニンニク(みじん切り) 1/2片、砂糖大さじ1、ナンプラー大さじ2、タカのツメ 1本(極細い小口切りにする)、香菜/ピーナッツ

【準備】

- ①春雨を7～8cmに切って水に浸して戻す。
- ②キクラゲをぬるま湯でもどし、適当に切り分ける。
- ③豚肉をみじん切りにする。(ひき肉でもよい)
- ④サクラエビをごく軽くフライパンで炒める。
- ⑤全ての野菜類をサラダにふさわしいサイズに切る。
- ⑥香菜の葉の部分は手でちぎり、茎は細かく切る。
- ⑦ピーナッツは細かく砕く。

【作り方】

- ①お湯を沸し、豚肉、春雨、キクラゲをさっとゆでる。
- ②丼に取って、ボールに入れ、用意の野菜類とタカのツメ、ニンニクを合せて調味料を掛け混ぜ、レタスを敷いた皿に盛り付けて香菜とピーナッツを散らす。

※春雨が汁を吸わないうちに食する。

■その他のレシピは‘わんりい’HPで検索ください。

<http://wanli-san.com/cooking/cooking%20title.html>



第9回 町田市民協働フェスティバル
町田で活躍の、100を越える団体が集結!

まちカフェ! 2015

- 2015年12月6日(日)
9:30～16:30
- 会場：町田市役所 1F～3F
(町田市森野 2-2-22)
- 問合せ：☎ 042-724-4362

まちカフェ実行委員会事務局・町田市市民部市民協働推進課

<https://www.city.machida.tokyo.jp/community/shimin/event/machicafe2012.html>

相模原市・無錫市友好都市締結30周年記念事業

記念式典や両市の紹介展などの多彩な事業を開催

● 無錫市友好訪日団を迎えた記念式典

2015年11月21日(土) 15:00(14:30開場)

橋本・杜のホール

【内容】式典と無錫市歌舞団の披露公演

◆ 新潮劇院京劇教室に通う、小学校5年生の大島陸クン(相模原市在住)が水滸伝の一節「石秀探庄」の石秀を演じます。

* 大島陸クンは2014年、第18回「中国児童戯曲梅花賞」コンクールに参加。2014年度の参加者は141名。外国人の参加はこの回が初めてながら見事、金賞を獲得しました。(紹介記事下記サイト)

<http://www.shineyo.com/ws/riku>

◆ 参加無料/先着300名

◆ 申込: (11月1日～15日)

相模原市コールセンター

☎042-770-7777

* なるべく早くお申し込みください。

● 無錫市紹介展

▲ 11月10日(火)～17日(火)

ユニコムプラザさがみはら ロビー ☎042-701-4370

▲ 11月18日(水)～24日(火)

ミウヰ橋本5階 インナーガーデン ☎042-700-7500

▲ 11月25日(水)～30日(月)

市役所本庁舎1階 ☎042-754-1111(代表)

● 記念コンサート11月22日(日) 14:00～14:30

ミウヰ橋本5階 インナーガーデン 張勝氏による二胡演奏



新潮劇院提供

「崔さんのお店」の催し2題

※「崔さんのお店」はオペラ歌手・崔宗宝さんが2014年にオープンの中韓料理店です。(大和市中央5-6-1)

● 本場イタリア人アーティストによるカンツォーネライブ

出演: モルガンティ・ロベルト/ディ・アマリオ・エンツォ

2015年11月28日(土) 参加費: 6000円

(17:00受付 17:30～ 食事&ライブ)

● ゴスペルクリスマス・チャリティコンサート

出演: マヤ・ハッチ/ゲリー・アドキンス/ポーラ・ジョンソン

2015年12月5日(土) 参加費: 10000円

(17:00受付 17:30ディナー 19:00ショー)

※高級中華コース料理・飲み放題・コンサート代を含む

◆ 予約申込 ☎046-262-2331(崔さんのお店)

2015年11月定例会及び11月号おたより発送日

◆ 11月定例会: 11月17日(火) 13:30～

◆ 12月号おたより印刷・発送: 11月29日(金) 10:30～

場所は共に三輪センター・第3会議室です。

★ おたより発送準備の日はお弁当を持参ください。

町田国際交流センターの催し

第13回 留学生トークプラザ

留学生たちの素晴らしい日本語と、異なる視点からの鋭い観察と主張を聞いてみよう!

● 開催日時: 2015年11月8日(日)

● 開催時間: 14:00～17:00(開場13:30)

● 会場: 町田市立中央図書館6Fホール

町田市原町田3-2-9、JR横浜線町田駅ターミナル口徒歩2分、小田急線町田駅徒歩10分

● 参加無料(定員60人 申し込み順)

● 申込み方法: FAX で、住所・氏名・参加人数と電話番号を町田国際交流センター「留学生トークプラザ」係へ

(FAX 042-722-5330)

◆ 問合せ: 町田国際交流センター ☎042-722-4260

(8:30～17:15 日・祝除く)

世界が相手の小濱明人 尺八・ソロ演奏ライブ

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~obama/akihito/akihito.html>

今回のゲスト: 伊藤多喜雄(民謡歌手)

● 2015年12月18日(金) 19:00～(18:00開場)

● 会場: ムリウイ(世田谷区祖師谷4-1-22-3F)

<http://www.ne.jp/asahi/cafe/muriwui/>

☎03-5429-2033

● 参加費: 予約3000円+1ドリンク

● 申込: オバマ(Fax:03-3867-8303)

山下孝之(ケーナ)・ライブ <http://www.tatayama.com/>

● 2015年11月15日(日) 15:00開演

● 町田ビートボックスカフェ(町田市中町3-5-6 1F)

<http://beatboxcafe.jp/>

● 参加費: 2,000円+500円(1ドリンク代)

● 問合せ&申込: ☎042-720-2305(ビートボックスカフェ)

'わんりい' 208号の主な目次

円明園	2
論語断片⑩君子は和して同ぜず	3
媛媛讲故事(79)「狐の婚礼I」	4
諺・慣用句(44)「吝嗇」	6
詩人尹世霖の童詩の世界⑦「もっと自由にさせて」	7
元寇と鷹島(2)	8
中国の笑い話25	10
四姑娘山写真だより35「小金の林檎」	11
タミル人と日本人	12
鄧さんの観光ガイド⑥「仏光寺と梁思成」	14
スリランカ紀行③「ブドゥルワガラ・ファンシー」	16
韓国鬱陵島の最高峰・聖人峰と釜山の金井山(1)	18
活動報告「手作りワンタンで交流しよう会」	20
'わんりい' 掲示板	22